



春号

No.59

平成30年3月1日発行

多賀



四月から九月の祭事暦

四月

- 神武天皇祭遙拝 四月三日(火)
- 御使殿大御供式 四月十五日(日)
- 馬頭人大御供式 四月十八日(水)
- 宵宮祭 四月二十一日(土)

●古例大祭

四月二十二日(日)

- 後宴祭 四月二十三日(月)
- 昭和祭 四月二十九日(日)

五月

- 傘寿薙寿祭 五月十日(木)
- 金婚薙寿祭 五月二十六日(土)

六月

- 御田植祭 六月三日(日)
- 六月古例祭 六月三十日(土)
- 夏越大祓式 六月三十日(土)

七月

- 九月頭人差定式 七月一日(日)

八月

- 万灯祭 八月三・四・五日(金・土・日)

九月

- 九月古例祭 九月九日(日)
- 拔穂祭 九月二十三日(日)
- 秋季皇霊祭遙拝 九月二十三日(日)
- 観月祭 九月二十四日(月)
- 池坊献華式 九月二十七日(木)
- 講社大祭 九月二十八日(金)
- 米寿薙寿祭 九月三十日(日)

諸祭

- 御日供祭 毎日午前七時より
- おついたち参り 元日を除く毎月一日の午前七時より
- 月次祭 元日を除く毎月一日・十五日

古例大祭

湖国の春を告げる古例大祭が、四月二十二日に斎行されます。

今年の馬頭人は西澤政男氏、御使殿は五十嵐勇人氏がご奉仕され、氏子、崇敬者による騎馬供奉など五〇〇名に及ぶ神幸行列が祭を彩ります。

今年の四月二十二日は日曜日。多くの参拝者で多賀の町は終日大賑いするでしょう。



馬頭人

にしざわ まさを
西澤 政男 氏

- 昭和19年4月11日生まれ (73歳)
- ・住所 彦根市鳥居本町
- ・現職 (株)西澤工務店 代表取締役
日本伝統建築技術保存会 会長
文化財修理技術保存連盟 理事長
- ・褒章 旭日単光章 受章

御使殿

いがらし ゆうと
五十嵐 勇人 氏

- 平成14年4月16日生まれ (15歳)
- ・住所 犬上郡多賀町中川原
- ・多賀中学校3年生

※平成30年1月現在

午後五時	午後四時	午後三時三十分	午後二時三十分	午後二時	午後一時	午前十一時三十分	午前十時三十分	午前八時三十分
本社到着 夕日の神事	尼子のお旅所出発	富ノ木渡し式	尼子のお旅所に到着	(馬頭人・御使殿合流)	本社前を通過	調宮神社を出発	調宮神社に到着	本殿祭 本社出発

祈年祭 (豊年講春季大祭)

一年の豊作を祈る祈年祭が、三月十七日に斎行されます。本年は、長浜市虎姫地区大世話係西沢豊氏が祈年使をご奉仕されます。

豊年講春季大祭祈年使を奉仕するにあたり

祈年使 西沢豊



去る二月十五日に開催されました豊年講大世話係会において、大役を仰せつかり、春季大祭にて豊年講員を代表し祈年使をご奉仕させていただきました。事になりました。

私自身、生まれも育ちも虎姫町(現・長浜市)で、お多賀さんには幼少期から家族で何度も参拝させて頂いておりました。中でも還暦時に奉仕致しました、節分祭の豆まきは、多賀の大神様との最良のご縁を頂いたと今でもうれしく思っています。

また、私生活では、五十八才で前職を定年した後、命の源である「水」に携わる自営を始め早や十五年、地域の為に日々邁進しておる次第です。

祭当日は、地域の世話方と共に精一杯ご奉仕申し上げ、今年一年の五穀豊穡をお祈り申し上げる所存です。

境内紹介

7

子安神社(こやすじんじや)



安産、子育ての神様で知られるこのはなさくやひのこ木の花咲哉姫命をお祀りする末社。境内西側の森の中に鎮座していましたが、より多くの妊婦さんにお参り頂けるよう、この度、拝殿東側に遷座が行われました。今後は、一般の方のご参拝も増えることを願っています。

多賀大社の神仏習合と神仏分離 Ⅲ

前号に引き続き、明治時代までの多賀大社における神仏習合と、それ以降の神仏分離について皇學館大学副学長 河野訓教授より寄稿を頂いております。

一 江戸時代までに多賀社で行われていた仏事

多賀大社でも江戸時代には全国の神社と同様、年中行事の中に仏教に関連するものがあつた。安永四(一七七五)年の「多賀大社儀軌」(『多賀大社叢書』記録篇一所収)巻二には本地仏や朝夕の勤行、護摩堂、三重塔、鐘楼堂のほか、重源や一遍など多賀社に關係の深かつた僧侶について述べられている。巻五から巻十一には年中行事が記され、正月元日の本地堂への供膳や護摩堂での護摩、各種法楽などのほか、仏事といえるものとして一月五日、五月五日、九月五日の大概若経転読、一月十五日から十七日の修正会、四月八日から七月八日までの夏安居、八月十五日の如法経経渡(写経)があり、三月三日の桃花御節供と九



写真① 先食台

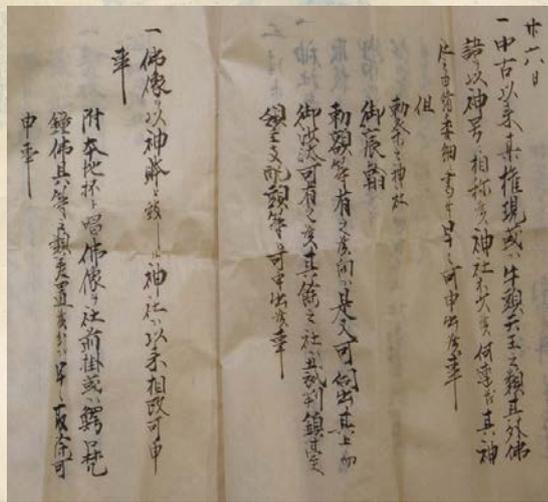
二 神仏分離令(神仏判然令)

月九日の重陽節供も仏教の伝承が色濃く関与している。この他、毎月一日、二日、五日、十一日、十三日、廿一日、廿三日、廿八日の常の御供では本社、日向社、山田社などと同様、本地堂にも仏供一膳が供えられた。また、御使者の鳥のために「社法にて神前に御供を備るときに、せん食の料として御供棚に一飯を置く」と定められており、これも仏教に由来する作法ではないかと考えられる。(写真①)

江戸時代以前には多くの社寺で神仏が習合され、混濁されていた。ところが慶応四(一八六八)年、新政府は神仏があわせまつられているのを分ける目的で神仏分離令(神仏判然令)を出した。

三月十七日には神社の別当・社僧に復飾(還俗)を命ずる令が出された(神祇事務局第一六五)。別当とは神仏習合の状況下にある神社・寺院全体を統轄していた別当寺の住職であり、社僧は神社付属の仏寺(いわゆる神宮寺)の僧で、仏事をもって神社に奉仕していた僧である。そのような僧には還俗が命じられた。また、三月二十八日には何々権現とか

皇學館大学副学長
河野 訓 (かわの さとし)
昭和三十二年宮崎県生まれ。
東京大学大学院修了後、文化庁
宗務課を経て皇學館大学教授。
現在、同大学副学長。



写真② 慶応4(1868)年3月28日の神仏分離令

三 多賀大社における神仏分離

牛頭天王など仏教語を神号としていた神社にはその由緒の提出が求められ、あわせて仏像を神体としている神社はこれを改め、本地仏などといって社前に掛けていた仏像や、鰐口・梵鐘・仏具類はその除去が求められた(太政官第一九六)。(写真②)

神仏分離令が出されるや、日吉社などで神職その他により廃仏毀釈が行なわれたため、過度の廃仏毀釈を諫め、神仏分離を慎重にすすめることを求める令(四月十日、太政官仰第二二六)も出された。

江戸時代の多賀大社には別当・不動院(写真③)のほか、般若院、成就院、観音院の三院があつた。この四院は明治初年に復飾し、その住職は神社に奉仕することになった。それぞれ不動院は不知哉川姓(間もなく日比野と改姓)、般若院は青山姓、成就院は舟塚姓、観音院は杉本姓を名乗った。



写真③ 不動院の遺構である奥書院並びに同庭園

明治初年、藩に出した明細帳にみえる家禄の分配は次のとおりである（西村為示「多賀大社神佛分離史料」〔『神道史研究』第七巻第四号〕による）。

は上述の元四院（は社家）。まず社用として一二〇石。続いて「二十石 社務日比野光雄、拾四石 大神主犬上吉元、拾石 大禰宜八重練宗綱、拾石 神主車戸宗功、拾石 神主大賀宗昌、拾石 神主大岡宗宣、拾石 神主青山敏秀、拾石 禰宜小川忠成、拾石 新庄宗武、拾石 禰宜舟塚義保、拾石 禰宜杉本安貞」、以下、祝二名、膳部七名、神子四名の家禄が記されている。これを見る限り、依然として旧不動院の日比野が社務として最上の家禄をもらっていたこと、また他の青山、杉本、舟塚も一

般神主と同格とされたことがわかる。

二つの神仏分離令が出された後、間もない四月七日、大津裁判所（新政府が大津代官所を廃止して設置した政府機関）から多賀社の神主と禰宜に近江国犬上郡一郡の社家触出し（役所が公布・示達した触を犬上郡中に伝える役目）が命ぜられた。これに対する大賀氏を総代とし、車戸氏・犬上氏・大岡氏・八重練氏・北川氏・新庄氏の神主・禰宜連署による請書では「冥加に相余り、有り難く謹みて畏み奉り候」、また「意外出格の御沙汰を蒙り奉り候段、全く往昔の社格、漸々衰廃に及び候儀、深く聞食分され候故と、社家一統重畳有り難き仕合せに存じ奉り候」など心から喜んでいられる様子が伺える。「徳川已来の醜政にて、浮屠の輩の為に圧倒せられ、私共儀旧格取失ひ、有名無実の身分と相成、且夕落涙悲歎の外、更に他事無く、列座罷り在り候」と、その背景には仏教勢力（浮屠）に圧倒されてきた江戸時代の状況も述べられている（『多賀大社叢書 論説篇』所収）。

四 別当・社人間の紛争

この当時、元別当側と社家の間で主導権争いがあった。先ず四月十七日に元別当が彦根に「復飾元別当願書」を出した。これに対し同二十五日、閏四月十四日、同十六日にはそれぞれ神祇事務役所、大津裁判所、神社奉行所に神主と禰宜の連署による歎願書を提出している。これに対して、同二十一日、もと四院の船塚・青山・杉本三氏が神社奉行所に「復飾社家連署歎願書」を、五月三日には元別当が「元

別当不知哉川光信歎願書」を出している。元別当の歎願書には「双方不平の儀これ無き様、熟談の上申し出づべき事」という附紙がつけられており、社家側と元四院側双方の不平がないように、熟談せよと申し渡されている。さらに元別当不知哉川氏は五月十五日にも弁事役所に歎願書を提出している。（当時の社家の動向は「多賀大社社家中手控大略」〔『多賀大社叢書 諸家篇二』に詳しい。〕

多賀社内側の対立に対し、この五月には神領百姓総代からも役所に歎願書が提出されている。その内容は別当の復飾願が聞届けられ、万事これまで通りの支配が続くことを百姓一同有り難く安堵していたところが去月二十四日、社家のところに村役人が呼び出され、「此度、大政官から多賀社はじめ百姓にいたるまで、別当不知哉川と社家たちが支配せよと仰せ渡されたのでそう心得よ」と言われた。村役人と百姓が話し合いをしたところ、一連の扱いは社家どもが謀計によって社領を押し領しようとしているのであって、社家による支配は承服できない、としている。この時点での社家の評判はすこぶる悪く、続く八月には社人について、「以後ハ退身仰せ付けられ、御別当計の御支配にて…」と、社人の退陣、元別当の支配を望む「神領庄屋等歎願書」も出されている。

節分祭

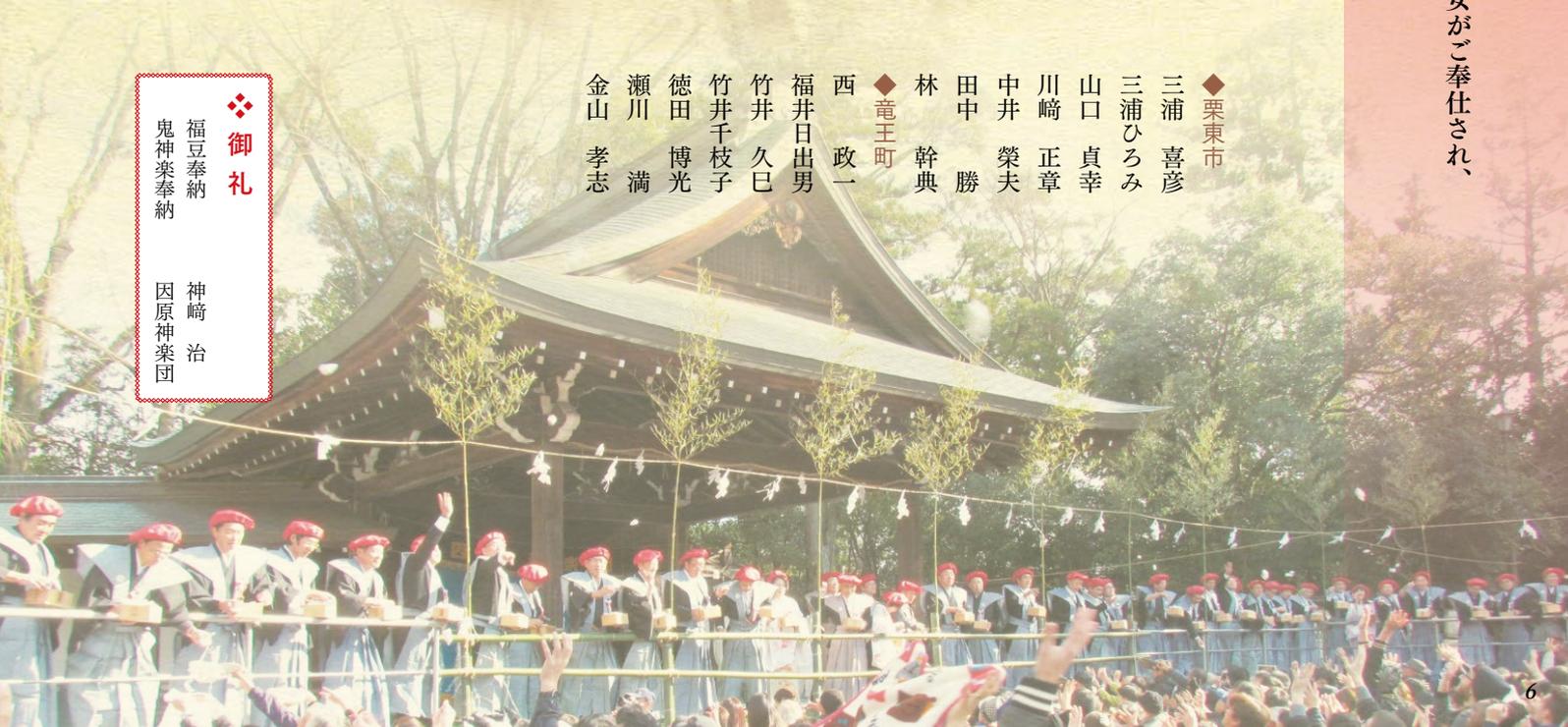
鬼は外!
福は内!

二月三日、恒例の節分祭が斎行されました。
福豆まきには、めでたく還暦を迎えた一八三名の年男・年女がご奉仕され、
無事立春を迎えることが出来ました。

奉仕者ご芳名(順不同・敬称略)

- ◆近江八幡市
 - 松浦 新
 - 西澤 由男
 - 西澤 沢美
 - 村林 斉
 - 中村 秀信
 - 蒲生 隆史
 - 菌田 寛
 - 田中 欣治
 - 改発 敏之
 - 奥村 勇市
 - 中村 善幸
 - 岡田 博文
 - 嵐 雅嗣
 - 中西 眞博
 - 島上久美子
 - ◆甲賀市
 - 石橋 正博
 - 石橋 智美
 - 望月 佳政
 - 増山 善則
 - 藤橋 弘次
 - 福永 忠克
 - 福永 好則
 - 福永 享晴
 - 平田 昌規
- 西澤 昭彦
- 辻 正典
- 福永 豊
- 中井 徳昭
- 川下 重彦
- 木村 初美
- ◆神戸市
 - 高橋 信彦
 - ◆湖南市
 - 武田亜矢子
 - ◆多賀町
 - 滝川 徹人
 - 山本三千夫
 - 喜多 誠
 - 木村 敏彦
 - 田中 利人
 - 安藤 一成
 - ◆豊郷町
 - 山口 昌和
 - 山口 法子
 - 安田 善紀
 - 安田 恵子
 - ◆長浜市
 - 富岡 晃
 - 大谷 京平
 - 廣部 嘉雄
 - 廣部 重嗣
 - 藤田 繁治
 - 田内 成雄
 - 藤田起嗣男
 - 中川 和泉
 - 高山 高広
 - 前川 宏一
 - 弓削 圭司
 - 本郷正二郎
 - 中村 重光
 - 青井 泉
 - 寺本 強
 - 寺元 一三
 - 大東眞寿雄
 - 堤 定彦
 - 伏木 清史
 - 宮川 三之
 - 山口 俊晃
 - 三田 讓司
 - 富岡 孝之
 - 田中 正門
 - 小林 正幸
 - 金森 和善
 - 三上 保彦
 - 中嶋 利明
 - 田邊 正人
 - 大野 稔喜
 - 長田 和士
 - 多賀 泰一
 - 武田幸一良
 - 小川傳十郎
 - 小川 良弘
 - 茂森 清嗣
 - 前田 和夫
 - 藤井弥一郎
 - 矢野 隆
 - 寺本 和博
 - 荒田 敏和
 - 日比野 仁
 - 富永 雅博
 - 横田 圭司
 - 宮部 国昭
 - 米田 守
 - 柴崎 正人
 - 尚永 圭司
 - 福田 達己
 - 保積 明男
 - 赤井 隆之
 - 川崎 新司
 - 後藤 修
 - 雨森 智
 - 西島 義和
 - 安居 宏
 - 岩田 幸喜
 - 松井 傳夫
 - 伊藤 武夫
 - 寺村 治彦
 - 原田 幸広
 - 千田 憲一
 - 岩井 利之
 - 角野 充
 - 織田 圭伸
 - 中原 勝
 - ◆東近江市
 - 奥村 義隆
 - 上田 善幸
 - 西野 敦子
 - 川南 壽
 - 村林 勝彦
 - 前田 慶二
 - 宇納 秀之
 - 石井 義伸
 - 石井美智子
 - 山本 晃一
 - 宮居 伝
 - 今堀 太平
 - 森野 良廣
 - 中澤 清
 - 辻野 行彦
 - 山本喜久子
 - 井堀 政芳
 - 井堀多美子
 - 藤本 英男
 - 周防 清二
 - ◆彦根市
 - 奥居 善則
 - 奥野 嘉己
 - 熊木 治
 - 藤井 明彦
 - 西村 真理
 - 戸成 晴美
 - 中川 信子
 - 中川 信子
 - 渋谷 玲子
 - 馬場 和子
 - 西関 裕子
 - 角 寿賀子
 - 中川 忠
 - 高木 茂
 - 大橋 利和
 - 北澤 一朗
 - ◆日野町
 - 山縣 淑隆
 - 奥井 雅秀
 - 山田久賀津
 - ◆守山市
 - 野玉 秀雄
 - 北尾 又一
 - 久野 正和
 - 清水 勝司
 - ◆米原市
 - 澤田 勉
 - 辻 宗則
 - 堤 辰也
 - 北村 善和
 - 長尾 吉洋
 - 日比 浅嗣
 - 成川 正樹
 - 成川 敦子
 - 吉田 敬徳
 - 世森 俊夫
 - 吉野 康明
 - 高畑 高子
 - 北川 行久
 - 藤田 誠
 - 山本 茂
 - 高畑 正人
 - 箕浦 孝幸
 - 中川 博之
 - 堀江 治
 - ◆栗東市
 - 三浦 喜彦
 - 三浦ひろみ
 - 山口 眞幸
 - 川崎 正章
 - 中井 榮夫
 - 田中 勝
 - 林 幹典
 - ◆竜王町
 - 西 政一
 - 福井日出男
 - 竹井 久巳
 - 竹井千枝子
 - 徳田 博光
 - 瀬川 満
 - 金山 孝志

◆御礼
福豆奉納
鬼神楽奉納
神崎 治
因原神楽団



多賀の杜

心安らぐ『お多賀さん』を目的に行われている多賀の杜整備事業も二年目を迎えました。



昨年末には、金咲稲荷参道の拡張と新たに竹の柵が新設され、十一月八日の稲荷例祭日には渡り初め式がめでたく行われました。

又、杜に新たな命が芽吹くよう境内の危険木伐採も引き続き行って参ります。日々変わりゆくお多賀さんには是非お参り下さい。

「車形代」をお祓いします

六月三十日に斎行される夏越大祓式において本年から車形代のお祓いを始めます。

改めて交通安全を祈願される機会となれば幸いです。

くるま かの しろ 車 形 代

車体番号と利用者の名前を記載
車形で車をなでる
大祓式当日に川へ流し交通安全を祈願します

新授与品ご紹介



お多賀杓子
(国産ヒノキ使用)
600円

多賀長寿はし
300円



ペット守り
各 1,000円

ご結婚五十年をお祝いします

当社では結婚五十年を迎えられたご夫婦を対象に金婚庭寿祭を斎行しております。本年は五月二十六日(土)に執り行われます。

参列ご希望の方には案内状をお送りしますのでご連絡下さい。

◆ 本年対象

昭和四十三年

昭和四十四年

ご結婚のご夫婦

TEL 〇七四九(四八)一一〇一

庭寿祭係まで



万灯祭 湖国の夏の風物詩

今年も万灯祭が八月三〜五日に斎行されます。是非、ご家族お揃いにてご参拝頂き、夏の風情をお楽しみ下さい。

また、ご献灯は随時受付しております。





挙式・披露宴承り中

結婚式は、おふたりの一生に一度の大切な日。和やかなひとときを多賀大社参集殿がお手伝いさせていただきます。

お宮詣り・お祝いの食事会のご案内

お祝いの食事会はいかがですか。お宮詣り・人生節目のお詣りの後にお食事・記念写真等承っています。



会席膳 5,000円

※写真はイメージです



松華堂弁当 3,000円



お子様ランチ 1,500円

お祝い会席膳
5,000円より

お祝い松華堂弁当
3,000円

お子様ランチ
1,500円より

記念写真(六ッ切りサイズ)
1ポーズ 8,800円

要予約 お食事・記念写真

ご飲食につき、別途 税・サービス料
10%申し受けます

お問い合わせ

0749-48-1103 ※完全予約制(年中無休)詳しくはホームページをご覧ください。

多賀大社参集殿

検索

都道府県別の平均寿命

(男) 全国平均 80.77 才 (女) 全国平均 87.01 才

	男	女
1位	滋賀県 (81.78才)	長野県 (87.67才)
2位	長野県 (81.75才)	岡山県 (87.67才)
3位	京都府 (81.40才)	島根県 (87.64才)
4位	奈良県 (81.36才)	滋賀県 (87.57才)
5位	神奈川県 (81.32才)	福井県 (87.54才)

(厚生労働省 平成27年都道府県別生命表 より)

編集後記

古くから延命長寿の神様として信仰を集める「お多賀さん」が鎮座する滋賀県の男性平均寿命が全国一位となりました。女性も四位と上位にランクインしました。
これもひとえに、大神様のお力か？
なにはともあれ、大変喜ばしい結果です。
一方で男女共に平均寿命八〇才を超える今の日本、今後はより一層元気で長生き出来る国づくりを目指していただきたいものです。